

「昭和 23 年の学制改革に遭遇した世代の『思い出の記』(その 13)」

《 相馬中学校に入学し相馬高校卒業となる等 》

相高夜間部 第 1 回生として ^(※1)

高定普夜 1 回卒 佐々木 實 ^(※2)

台湾で旧制中学校に在学のまま、終戦となり、昭和 21 年に日本へ引揚げて参りました。当時は食糧難との戦いに追われ、食べられる草はすべて食糧となるくらい、生きていくことが大変でした。

この時代に勉強の時機を逸した人は私ばかりではありませんが、丁度その頃、相高に夜間部がタイミングよく開校されたのです。

入学した 80 余名、4 年後の 28 年に卒業できた者は 16 名、年齢に幅があり、また職業も公務員から職人等々と大変バラエティに富んだ学級でした。4 年間担任だった新妻先生 ^(※3) は大変なご苦勞をされたことと思います。新妻先生は相馬方言の研究者として全国的にも有名な国語学者でした。

当時の相高は、戦後の混乱期でした。夜間部の生徒会も昼間部の生徒会の中にあっただので、夜間部の生徒会は独立すべきだと学校側教務の先生と交渉しましたが、学校側は『昼間部と夜間部と生徒会が二つあるのは如何がなものか』との考えだったことを覚えています。その後、夜間部生徒会を独立させ、その第 1 回の生徒会長をさせていただきました。

授業は充実した毎晩でした。議論百出した社会科の授業、黒板の文字が光の関係で見えにくく、チョークを黄色にさせていただいてから黒板は光らなくなりました。

戦後、相高としては初めての修学旅行を、夜間部第 1 回生が実施しました。日光、東京方面で、全員が学割を利用しての修学旅行でした。自分達で計画し、その場その場でコースを変更しながらの楽しい修学旅行でした。

夜間部の授業は先生方も大変だったと思います。冬の夜のきつい寒さ、眠気との戦いなどつらい事もありましたが、真剣にそして主体的に学んだ 4 年間でした。

更に大学へ進学した者も居り、相馬で教員になった者も 2 名ほどいます。

戦後の混乱期から安定期にかけての夜間部の存在意義は大いにあったと私は今でも感謝している次第です。4 年間苦しかったが夜間部を卒業出来た事を誇りにしております。誠にありがとうございました。

(※1) 記念誌『相中相高百年史』(1998 (平成 10) 年 7 月発行) の「思い出の記」より。

(※2) 昭和 28 (1953) 年卒、中村出身。

(※3) 新妻三男、大正 11 (1922) 年卒、相中第 20 回、中村出身。

平和に恵まれすぎて、自分の幸せの感じとり方が 薄いのではないか。まず実行を^(※1)

高定普夜1回卒 佐々木 實

相馬市広文堂書店取締役



昭和20年、旧制中学に在学中敗戦。混乱で、台湾より相馬市に引揚げてきました。生きる為に働きました。その後、相馬高校に夜間部が創設されることを知り、喜んで受験入学しました。入学者は80数名。昼は働き夜は、相馬高校で教を頂きました。又、推されて夜間部生徒会の初代会長をさせて頂きました。

苦しかった4年間。多難な理由で通学できず途中で退学した級友は約70名、幸いにも卒業できた者は、入学時の約18%の16名でした。今でも卒業できたことを誇りに思っております。

その後、今日まで書店界一筋の道を歩んでおります。お陰様で書店界でも実務家として認められ、東京、水戸、郡山、福島、仙台、山形市そして島根県の松江市などの、各地の書店研修会に講師として、書店の皆様と話をする機会を与えられましたことは、誠に幸運であったと思います。

又、昭和56年に『全国書店新聞』創刊500号記念論文に入選することが出来ました。全国11人の書店人の一人に選ばれたことを誇りに思います。記念論文集は、全国の書店に配布されました。こんなことで現在に至っております。

子供たちの成長と共にPTA活動もさせて頂きました。会長として桜丘小、中村一中、相馬市連合PTA会長、相高PTAでも役員をしました。更に相馬女子高校の会長を最後にすべてのPTA活動も終わりました。又、福島地方裁判所内の福島検察審査会の会長として、貴重な経験をさせて頂きました。

現在は、『相馬写仏会』の会長として、会員の皆様と月例研修会にはげんでおります。

さて、こんな事から教育の大切さを勉強することが出来ました。平和に恵まれすぎていて自分の幸せの感じとり方が薄いのではないかと思います。

いよいよ高校生の皆さんの出番です。

それは、自信を持つことです。やれば必ず出来ると自分自身に言い聞かせ、先ず実行することだと思います。失敗を考えず必ず成功すると、信じて何事にも挑戦する積極性を出して下さい。自分を信じないで誰が信じてくれますか？実行すれば必ず出来ると信じて下さい。

『切に思わば必ず得べし』(道元禅師)自分がやるべきことを『必ずやりとうしてみせる』と決断して、その目標に向かって、まい進すれば、必ず実現出来ると説いています。大抵の人は、出来ないのではなくやらないだけなのです。実行すれば必ず出来ると信じて下さい。実際に行う事を『実行』と言います。失敗は本当に失敗だったのでしょか？そこから学ぶ事が沢山あるはずですよ。

『機先を制する』気迫を持って事にあたれば必ず全て、うまく出来ます。必ず出来ると信じて何事にもチャレンジすることだと思います。

(※1) 創立90周年記念誌『紅の旗』(1988(昭和63)年9月発行)の

「今こそ伝えたい、希望と勇気を=OBから若駒への熱きメッセージ=」より。